

「つくばエクスペスタウン」で ”よりどり・緑・彩り生活”

TXでつくばが、首都圏デビュー

8月24日の「つくばエクスペスタウン(TX)の開業によって、つくばは本格的に首都圏デビュー」したのだと言えます。もちろん、つくばは、国内外の研究者や学術関係者にはよく知られており、既に国内デビュー、世界デビューは果たしています。

しかし、首都圏の一般の生活者にとっては、つくばと言えば科学万博が開催された以外、まったくと言って良いほどの実態は知られていませんでした。そういった意味で、東京都心と直結するTXの開業は、つくばエリアの大きな転換点となるのです。

つくばのイメージは、年輩の人ならば富士山と並び称される景勝地だった筑波山、若い世代ならサッカーの中山ゴンや平山相太、バレーボールの三屋裕子、映画監督の岩井俊二、それにポケモンを生んだ筑波大学を思い浮かべる人が多いでしょう。ドラマの撮影場所に使われたりしますが、つくばの街そのものをマスコミが取り上げる機会はありませんでした。

それは、現在のテレビのプロデューサーや雑誌の編集長の世代にとって、学生時代に開発が始まったつくばは無味乾燥な人工都市と捉えられ、マイナスのイメージが今だに定着しているからなのです。

私達が取り組んで来たPR活動によって、「東京ウォーカー」などの情報誌や女性誌でも初めて特集が組まれ、ようやくテレビ番組にも登場し始めました。しかし、つくばは輝く宝石の原石なのです。

長期熟成のビンテージワイン

開発当初のつくばは、新住民の属性からすれば東京の飛び地で、アクセスも悪く、陸の孤島と言われました。TXもかつて常磐新線と呼ばれていましたが、いつまでもできない「冗談新線」と揶揄されてきました。

しかしその間に、20数年の歳月を経て街は地域に根付き、茨城県にとっても欠くことのできない中核都市の一つとなりました。大学や研究機関と地域との人的交流も密になり、地元産の野菜がレストランのテーブルに上り、道路には街路樹



つくば駅周辺に加わった 都心レベルのファッションビルショップ



外国人も参加 つくばらしい雰囲気フリーマーケット

が見事に育ち、花壇には草花が咲き乱れています。それらと同様に、TXがすぐに開業しなかったからこそ、つくば固有の文化が育ち、長期熟成のビンテージワインのように最高の状態で発酵した時に、絶妙のタイミングで、TXによって東京都心とつながることになったのです。

門外不出の「つくばスタイル」を発信

つくばに住んでいる人達は、つくばの街の素晴らしさを多くの人に知ってもらいたい気持ちと、自分達だけのものにしておきたいという二律背反する気持ちを同時に持っているように感じます。

つくばには欧米での生活体験のある研究者や学者をはじめ、意識の高い人達が数多く住んでいます。食文化や音楽やスポーツなど生活文化の水準も高い街です。それに加えて東京では考えられない緑豊かな自然が広がっています。

そんな環境の中で知的に豊かな生活を送る「つくばスタイル」(つくば型ライフスタイル)は、これからの日本人が求める生活の一つの理想形だと言えます。そういった「知的スロー

食べるピザのように選ぶので「ピザパン化現象」と呼んでいます。多様な住まい方が可能な「つくばエクスペスタウン」はそんな時代にピッタリです。

勝ち組ならぬ「価値組」の街

お金や地位や名誉を手に入れた勝ち組

でも、健康や愛し合える家族なくして幸せにはなり得ません。そして、人は自分の価値観を全うできて始めて幸せを感じられるのです。つまり、勝ち負けの勝ち組ではなく、自分の価値観を大切に生きて「価値組」こそが、人々がこれから目指すべき方ではないでしょうか。「つくばエクスペスタウン」は、一人一人が求める価値をエクスペスタウン(表現)できる「価値組」の街なのだと言えます。

「健康と環境を維持可能にするライフスタイルが、世界的なムーブメントになっています。その実現のためにはスロースタイルが求められます。

しかし、いつもスロースタイルを送れるのは理想ですが、スロースタイルだけが可能なものは引退したお金持ちだけでしょう。ファストライフがあるからこそスロースタイルができるのです。都会から遠く離れた自然の中に暮らすのはいいですが、会社や学校へ通うのが「痛動」や「痛学」になつてしまいます。そのうえ、急な病気やケガ

TX沿線では「よりどり・緑・彩り生活」が可能です。ITセンター秋葉原、東大や千葉大、東葛テクノプラザのある柏、筑波研究学園都市を結ぶ「リサーチパーク沿線」、「IT沿線」、「高IQ沿線」、起業家が集まる「ベンチャー沿線」、アニメやゲームのmaniaが多い「萌え鉄」、サッカー(蹴球)ファンがたくさん「蹴鉄」、様々なスポーツに一生親しめる「生涯アスリート沿線」、「ロハス沿線」などなど様々な呼び方ができる「TX合衆国」とも言える多種多様な特性を持っています。それから、最高の「子育て沿線」であることも見逃せません。都市の便利さと



大きく育った樹の緑陰に憩う 洞峰公園



つくばスタイルフェスタ会場に出展したハーブ園

しかし、いつもスロースタイルを送れるのは理想ですが、スロースタイルだけが可能なものは引退したお金持ちだけでしょう。ファストライフがあるからこそスロースタイルができるのです。都会から遠く離れた自然の中に暮らすのはいいですが、会社や学校へ通うのが「痛動」や「痛学」になつてしまいます。そのうえ、急な病気やケガ

TX沿線では「よりどり・緑・彩り生活」が可能です。ITセンター秋葉原、東大や千葉大、東葛テクノプラザのある柏、筑波研究学園都市を結ぶ「リサーチパーク沿線」、「IT沿線」、「高IQ沿線」、起業家が集まる「ベンチャー沿線」、アニメやゲームのmaniaが多い「萌え鉄」、サッカー(蹴球)ファンがたくさん「蹴鉄」、様々なスポーツに一生親しめる「生涯アスリート沿線」、「ロハス沿線」などなど様々な呼び方ができる「TX合衆国」とも言える多種多様な特性を持っています。それから、最高の「子育て沿線」であることも見逃せません。都市の便利さと



つくば中央公園とシンボリックな三井ビル

ライフ」とも言える門外不出の「つくばスタイル」に、TXの開通によって誰もがアクセスできるようになったのです。

ドーナツ化 あんパン化 ピザパン化

高度成長期、首都圏では都心の地価高騰と環境悪化によって、人口が郊外に流出しました。いわゆる中心部が空洞化する「ドーナツ化現象」が起こったのです。ところが、バブル崩壊によって都心の地価は下落しました。都心に土地を持つ企業が資産の有効活用を図ったために大小のマンションが林立し、人口の都心回帰が進みました。この10数年間、人口の増加率が最も高かったのは中央区で毎年5

共に、子どもの心と体の健全な成長に欠かせない自然も豊かです。また、自治体も事業主体であるため、教育機関や医療機関、公的なサポートも充実しています。また、このTXの敷設と沿線地域の整備のために「宅鉄法」または「一体化法」といわれる法律が制定されて開発を進めて来たこともあり、踏切は一つも無く、駅や街もバリアフリー化され、歩行者専用道路も整備されているので、ベビーカーでの外出も安全安心です。

進展する少子化社会にあっても、むしろ人口が増加傾向にあるのがこの沿線です。子どもが増えれば生活サービスの需要はますます増大します。既に全国でも有数の地価上昇を示した沿線地域でもあります。首都圏にこれだけの新たな鉄道や街が造られることは今後もうありません。TX開業は千載一遇のビジネスチャンスでもあるのです。「つくばエクスペスタウン」は、人々がONもOFFも夢を叶えられる街になるに違いありません。



UR都市機構「つくばエクスペスタウン」PRスーパーバイザー 西川りゅうじん

商業開発研究所レゾン所長。マーケティングコンサルタント。1960年神戸市生まれ。一橋大学卒。施設、イベント、地域活性化などの企画プロデュースに手腕を発揮。茨城県つくば市田園都市推進会議アドバイザー、柏ストリートプレイカーズ塾頭、東さいたま地域青年会議所交流会講師、千代田区(秋葉原)街づくり委員を務めるなど沿線の地域や産業の活性化に携わって来た。また、東京工業大学、早稲田大学等で非常勤講師、拓殖大学客員教授、CODAN東雲などUR都市機構各支社の企画委員や講師を歴任。アッシー、ジモティ、コヤジ等の流行語の造語でも知られる。